

## Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

### 病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、挑戦を続けています。

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第68期(2015年4月1日から2016年3月31日まで)につきましては、長期収載品が競合品や後発品使用促進策の影響を受けたものの、主要新製品が堅調に伸長するとともに、2015年12月に「切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌」に対する効能追加を取得した抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」が想定以上に伸長しました。また、欧米での売上拡大に伴いロイヤルティ収入も増加しましたことから、売上は期初計画を大きく上回る結果となりました。

利益面につきましても、売上原価の増加に加え、研究開発費ならびに販売費及び一般管理費も増加しましたが、売上が大幅に増加するとともに、退職給付制度改定に伴う人件費が減少したことなどにより、大幅増益となりました。

医薬品市場においては、新薬創製のための研究開発費が増加するなか、新たな後発医薬品使用促進策など医療費抑制策が強化され、新薬開発型企業にとっては厳しい状況が続いています。

このような事業環境のなか、当社は新薬開発型製薬企業として持続的に発展していくために、「開発パイプラインの拡充」、「海外展開の推進」に取り組むとともに、「企業基盤の強化」に努めています。



## 三つの経営課題に対する取り組み

開発パイプラインの拡充	持続的成長のためには、開発パイプラインを拡充し、継続的に新薬を市場に送り出すことが不可欠です。創薬においては、オープン・イノベーションを推進し、独創的かつ画期的な医薬品創製を加速しつつ、事業戦略性の高い、あるいは医療ニーズの大きい疾患に対する有望な新薬候補化合物の導入に引き続き注力していくことで、今後も継続的な新薬上市に努めます。また、臨床試験においては、新薬開発のスピードアップにも努めます。
海外展開の推進	自社創製の新薬を世界中の患者さんにお届けできるよう、海外での臨床開発を推進するとともに、海外提携企業を通じて、自社創製化合物の海外での上市を目指してグローバルな事業展開を推進しています。また、抗がん剤などのスペシャリティ製品については、海外でも自社で販売していけるようアジアから自社販売の基盤づくりに取り組み始めており、すでに韓国、台湾で現地法人を設立し自社販売体制を整備しました。引き続き、海外での事業拠点を整備していきます。
企業基盤の強化	グローバルレベルでの競争力を高めていくため、人財の育成と活性化、事業のスピードアップに努めます。また、多様性の向上に取り組み、さまざまな環境変化への対応を図ります。さらに、CSR活動については、「コーポレートガバナンス」「革新的な医薬品」「人財・人権」「環境」「公正な事業慣行」「社会」を重点領域として位置づけ、一層推進していくことで、企業基盤の強化を図っていきます。

わたしたちは、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに、医療現場のニーズに沿った新薬を一日も早くお届けするために、一丸となって挑戦を続けていきます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して建立された石碑。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

代表取締役社長 相良 暁